資料－１

Ｈ２７.４.17
義務教育課

宮城県学力向上対策協議会の協議概要

No.	視　点	課　題	改善の方向性		５つの提言との関連
1	授業づくり 問題・課題 授業者	【①問題場面の把握】 ・問題場面を自分のこととして捉えていない。 ・算数は生活に生かせるという意識が低い。	解きたくなる問題の設定	・子どもの生活場面や思考に沿った問題を設定する。 ・図やグラフなどで視覚に訴え，問題場面を確実に把握させる。	
		【②課題の設定】 ・表層的な「例題―演習」の繰り返し授業が多い。 ・提示したねらいが子どもの課題になっていない。	自分のものと捉えることができる課題の設定	・思考を要する課題設定により，考えてみたい，解決したいという意識を高める。 ・学ばせたいものを子どもが学びたいものに変換させる。 ・子ども自身が課題を設定できるようにする。 ・課題を自分のものとして捉えられるよう豊かな経験を積ませる ・子どもにしっかり伝わる課題の提示を工夫する。	＜５つの提言③＞ ねらいの明確化
	学び合い	【③自力解決と集団解決】 ・「教えるべきところ」と「考えさせるべきところ」の区別ができていない。 ・自力解決の場面では，理解の遅い子どもに付きっきりで教えがちになる。	教えることと考えさせることの峻別	・本時で考えさせたいことを精選し，教えるべきことはきちんと教える。 ・既習事項を生かして考えるよう働き掛ける。	
		・算数的な活動の形はあるが，中身が伴っていない。	自分の考えを図や表，式などでかき表す活動の重視	・自分の考えをノートにまとめさせ、発表に生かす。 ・算数的活動では図や表，式などのツールを積極的に使わせ，言語活動の充実を図る。	＜５つの提言④＞ 書く・ノートづくり
		・ポイントを上げる指導ではなく，子どもたちが練り合い，分かる授業を行いたい。 ・目標分析が不十分で，練り合いの後のまとめがない。	思考を深める学び合いの工夫（練り合い）	・友達との交流で様々な考えに気付かせる。 ・他人に教える活動が知識定着に有効であることから，小集団で自分の考えを説明することに重点を置いた「練り合い」の場面を設定する。 ・集団解決では，子ども同士の言葉で理解させる。	＜５つの提言②＞ ほめる・認める
	適用問題			・どのように練り合わせるのか，あらかじめねらいを明確にし計画しておく。 ・子どもの発言や反応で立ち止まり，練り合いを深める。	＜５つの提言①＞ 声掛け・声を聴く
		【④適用問題】 ・ねらいや評価規準とずれた適用問題が多い。	学習内容の確実な定着を図る適用問題の設定	・本時のねらいに基づいた適用問題を設定する。 ・定着状況を適用問題で見取り，個に応じた指導により，全員に本時の学習内容を定着させる。 ・適用問題に加え，発展問題も用意しておく。	＜５つの提言③＞ 振り返りの充実
	教材研究	【教材研究】 ・教科書から始まる教材研究が多いが，その前の学習指導要領の読み込みを大切にしたい。 ・教える方法ばかりに気を取られて，教える内容の押さえが弱い。 ・子どもの実態の押さえが弱い。	授業に生きる教材研究の充実	・教材研究は学習指導要領から始める。 ・学力調査問題を解くために必要な学力を支える要素を，教材研究を通してして明らかにする。 ・子どもが数学的な用語を使ってまとめられるよう意識して指導を行う。 ・「数学的な考え方」を身に付けられるところまで見通した教材研究を行う。	
	５つの提言	【５つの提言】 ・５つの提言をもっと徹底させる必要がある。	５つの提言の自校化と実践化	・５つの提言の自校化を図り，具体的実践に結び付ける。	
2	算数・数学科経営 教科主任	・算数・数学科経営が弱い。 ・指導計画が教師主導である。 ・これまでの提言や配布物が生かされていない。	算数・数学科経営の充実	・４月に算数・数学科の経営方針の確認し，モデル授業により自校の学習の進め方や板書のルール等の理解を図る。 ・指導計画に問題解決的な学習を位置付ける。 ・実践を通して指導計画の改善を行う。 ・各種資料の活用と自校化を図る。	
		・学習内容を定着させないまま，次の学年に進んでいる。	その学年で定着させるべき学習内容の確実な定着 全校体制の学び直しの取組	・身に付けておかなければ後の学年に影響を及ぼす内容の確実な定着を図る。 ・放課後などを使い，全校体制で学習を定着させる取組を行う。	
3	家庭学習の充実・家庭との連携 研究主任 学級担任 保護者	【家庭学習の時間と場の確保】 ・家庭で学習するための時間の確保が課題である。 ・落ち着いて学習する場がない地域もある。	家庭学習時間の確保と学習環境の整備	・健全育成を総合的に捉え，部活動やスポ少等の活動団体へ協力を要請する。 ・放課後学習や週末，長期休業中の学習できる環境をつくる。	＜５つの提言⑤＞ 家庭学習の充実
		【家庭学習の内容】 ・家庭学習と授業がかみ合っていない。	授業と家庭学習の特性を踏まえた効果的な循環	・家庭学習と授業，それぞれの学習の特質を理解した上で循環を工夫する。 ・予習重視の家庭学習も一つの方法である。 ・「反転授業」などの新たな工夫も取り入れる。	
		【スマートフォン等への対応】 ・ネットやテレビなどの時間が減らない。	自律的な生活習慣の育成 家庭との連携	・生活習慣の定着も含めて，「切り替える力」の大切さを啓発する。 ・普及の現状を踏まえて，子どもと家庭の両面から啓発する必要がある。 ・各家庭におけるルールづくりを奨励する。	
4	教員の研修・小中連携 管理職	【教員の研修】 ・より実効性のある研修が必要である。 ・数学の少人数指導の講師の研修が必要である。	目的に応じた研修機会の設定	・調査問題を実際に解いてみる研修を取り入れる。 ・小グループの研修でミドルリーダーを育てる。 ・空き時間を利用して互いに授業参観を行う。 ・力量を高めるまで時間がかかることを認識し，先を見通して教員を育てる。	
		【小中連携】 ・小中連携で，授業は見合うが話合いに至っていない。 ・引き継ぎはペーパーで済ませている。 ・小中高の系統が捉えられていない。	実効性のある小中連携の確立	・県内どの地域でも同じような指導を行う。 ・中学校区ごとに課題分析と対策を行う。 ・顔をつきあわせての引き継ぎや打合せを行う。 ・教科研究の目標や計画等を，小中で交換する。	
5	教育行政の指導・支援 教育委員会	【教員の指導力向上】 ・授業力向上に向けた教育行政の支援が必要である。 ・今後，みやぎ版の算数・数学の授業スタイルが求められる。	直面する課題に対応した学力向上対策 ニーズに対応した研修機会の提供	・学力向上算数・数学研修会，指導主事学校訪問 学力向上研究指定校事業，学力向上対策協議会 ・学力向上マンパワー活用事業， 学力サポートプログラム事業	
		【地域の実情に応じた学びの場の確保】 ・被災地では未だ学習する場所の確保が課題である。	地教委と連携した学びの場の提供	・学び支援コーディネーター等配置事業 他	